



3月22日 日曜日
発行所(〒371-8666) 前橋市古市町1-50-21
上毛新聞社
(総合)027-254-9911
(編集)027-254-9933
(広告)027-254-9944
(販売)027-254-3131
(事業)027-254-9955
©上毛新聞社 2015年

歯と口腔の健康は、元気に生活できる期間「健康寿命」の長さにもつながり、子どものころからの適切な予防指導が欠かせない。1986年度に1000人当たり64.4人だった虫歯がある県内の3歳児は、就学前の歯磨き指導や歯磨き用品の改良などで13年度には18.2人と大幅に改善した。ただ、地域差があるのが実態だ。地道な指導で成果を上げた自治体がある一方、危機感から予防体制の整備に乗り出した地域もある。

3歳児の虫歯

早期予防で劇的效果



最下位からトップ

13年度、3歳児歯科検診の受診者は全県で1万5579人。高崎3215人、前橋2629人、太田1982人、伊勢崎1774人の4市で全体の6割を占める。一方、8町村は各30人に満たず、統計結果も年度ごとの変動が大きい。

27年で3分の1以下 フッ化物威力 地域差が課題

高岡甘楽歯科医師会(高岡、甘楽、下仁田、南牧)は1991年度、3歳児の虫歯本数が県平均3.31本

Table with 3 columns: 市町村, 虫歯保有者率(%), 1人当たりの虫歯本数. Lists municipalities like 橋本, 高崎, etc. and their respective rates and numbers.

だったのに対し4.99本と当時の12保健所単位で最下位だった。他地域に先駆けて86年から幼稚園と保育園に導入したフッ化物で口をゆすぐ予防法が、93年には4市町村に普及。99年度は同じ統計で1位になった。

社会的事情で 「共働き世帯の増加などで医師に診てもらう時間がないのでは」。1人当たりの虫歯本数が12市で唯一、1本に達した太田市教委学校教育課の担当者はこう推測する。中学1年生で歯科医が口内の写真から歯の状態を診断しているが、14年度は歯科衛生士による小学校での指導を始めた。14、

虫歯なし 83%目標 18年度 県計画

県は14年度から5カ年の「県歯科口腔保健推進計画」で、年齢層ごとに歯と口の健康を向上させる数値目標を示した。5歳までの歯の健康管理が永久歯の発育に影響するとして、虫歯がある3歳児

を12年度の100人当たり19.3人から18年度に同17人へ減らす。フッ化物で口をゆすぐ取り組みは15市町村を20に拡大。家庭に正しい食生活や歯磨きの習慣づけ、市町村に啓発や指導の強化を求めている。